

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援・放課後等デイサービス のこのこプラス平岡		
○保護者評価実施期間	2025年 11月 1日		～ 2025年 12月 6日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	27人	(回答者数) 25人
○従業者評価実施期間	2025年 11月 1日		～ 2025年 12月 6日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6人	(回答者数) 6人
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 18日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・子どもの心理面を大切にす支援	・子どもたちの安心できる居場所づくりを意識している。 ・子どもたちが「できた」「ここにきてよかった」「楽しくすごせた」と感じられる関わりを意識している。	・子ども一人ひとりの特性や状況、様子をしっかりと把握、観察し、それを職員間で共有していく。 ・職員が明るく親身に子どもたちに接することを意識していく。
2	・保護者や関係機関との連携	・送迎時や定期的な面談の中で、日常の小さな変化や気になることなど、気軽に話せる関係性を作れるように意識している。 ・関係機関との連携を取り、子どもたちの支援を共通して行っていけるよう意識している。	・子どもたちの日々の成長、変化、困り感を共有していく。
3	・様々な活動内容と適切な環境整備	・季節に合わせた行事の立案、子どもの特性に合わせた様々な活動ができるように工夫している。 ・学習スペースや余暇スペース、クールダウンスペースなど用途、状況に合わせた環境を整備している。	・子どもたちがここでの日常生活や活動を通して、季節を感じ、知識、経験を増やしていけるよう行事や活動を考案していきたい。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・職員の人員配置	・人材確保の難しさ。 ・より良い支援を目指すときに、人員が不足でなかなかそれが十分に行えない。	・子どもたちの安全を第一に、支援の質の向上を目指して、まずは現状のできる中で取り組んでいきたい。
2	・地域との交流	・子どもたちが地域の方たちとの交流に消極的な部分がある。	・思春期や周りの目が気になる子どもたちへの配慮をしながら、検討していきたい。
3	・活動内容の情報共有	・保護者の方への、活動内容の情報共有不足。	・送迎時、面談時、提供記録を通して、活動内容をしっかりと情報共有していきたい。